

解 説



北陸品質工学研究会座談会

北陸品質工学研究会の振り返りとこれから

—品質工学会とともに歩んだ30年—

*Hokuriku Robust Quality Engineering Forum Society: Reflection and Outlook
— Collaboration with Robust Quality Engineering Society over 30 Years —*

北陸品質工学研究会

嘉指伸一（会長，嘉指技術品質研究所），佐々木 賢，林 航洋（（株）ノトアロイ），志田穰太郎（（同）快活時間，元（株）ノトアロイ），内田健太郎，林 憲一（（株）白山），伊勢大成（福井工業高等専門学校），水谷淳之介，山本桂一郎（富山高等専門学校）

1. はじめに

水谷 品質工学会も設立30周年を迎えた。この北陸品質工学会も品質工学フォーラム設立の翌年の1994年に「富山品質工学研究会」として発足し、毎月会場を会員が持ち回りして例会を行い、2004年「北陸品質工学研究会」への改称以降は北陸3県に範囲を広げて活動し今日に至っている。この30周年を節目として本研究会の歩みを振り返り、今後の研究会のあり方について検討したい。

嘉指 1993年に品質工学フォーラムが立ち上がった頃、当時私が勤めていた（株）不二越でも品質工学の成果が上がっており、ぜひ田口先生の考え方を富山県の少しでもたくさんの人たちに理解してもらい、もっと効率的に技術開発ができないかと考えていた。そこで矢野宏先生からけし掛けられたこともあり、当時品質工学と一緒に研究していた仲間と研究会設立の準備を始めた。矢野宏先生から富山県工業試験場の向山俊博さんを紹介いただき、プラスチック工業部品メーカーの三光合成（株）、黒田化学（株）や富山和泉電機（株）などの人たちや、当時不二越に勤務していた浜田真先生も一緒になって県内の会社を回りながら半年ぐらいかけて準備し、1994年3月富山県工業試験場で設立総会を開催することがで

きた。

水谷 私はその設立総会に参加したが、総会のパンフレットは青焼きのコピーで、その参加者名簿によると非常に多くの県内企業の人たちが参加していた。半年の準備期間に相当な会社を訪問し苦労されたと推察する。

嘉指 本研究会は来年で30年を迎えるが、この間に仕事も環境も生き方も違う人たちと月に1回出会う、それこそ真面目な品質工学に関する自分の仕事について議論を続けてこられたのは本当に幸せだと思っている。

2. 品質工学でなければ認めない

水谷 まず、皆さんからこの研究会入会の動機について伺いたい。

佐々木 石川県工業試験場の粟津さんから、「これからの技術者は品質工学を知らなければならない」と言われ、嘉指さんの講座を受講し研究会を紹介されて参加するようになった。当時会社では1年間かけて開発していたことがうまくいかず、もう開発をやめようと思っていたところで、品質工学を知ってまたやってみようと思った。テーマは不良撲滅みたいなことをやっていて、研究会でもんでもらい矢野